2021年 2月 9日（火）

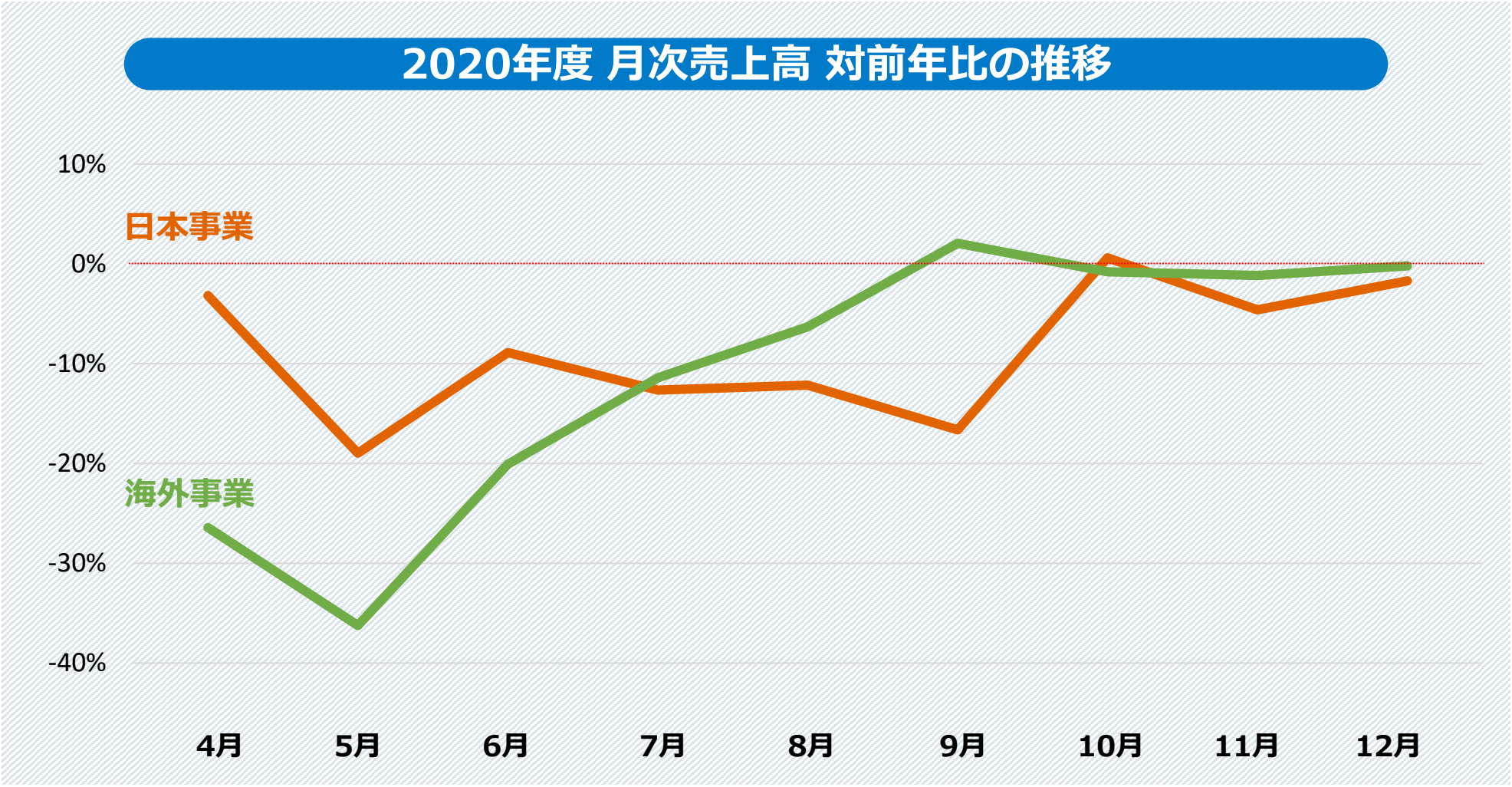
サトーホールディングス株式会社

2021年3月期 第3四半期 決算説明資料

証券コード：6287

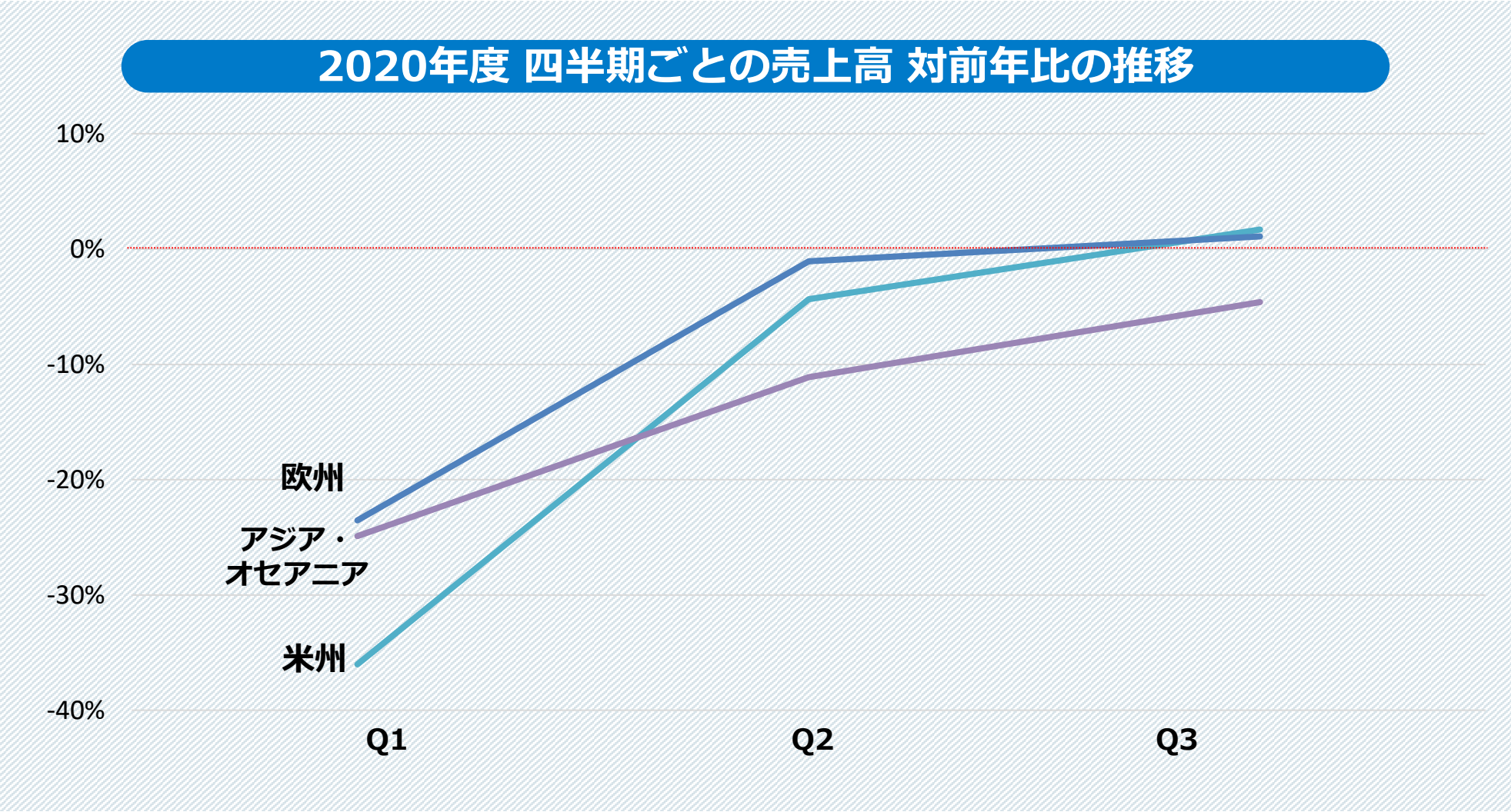
売上推移（海外・日本）

営業活動やお客さま稼働の段階的な再開を受け、海外、日本ともに回復基調



売上推移（地域別）

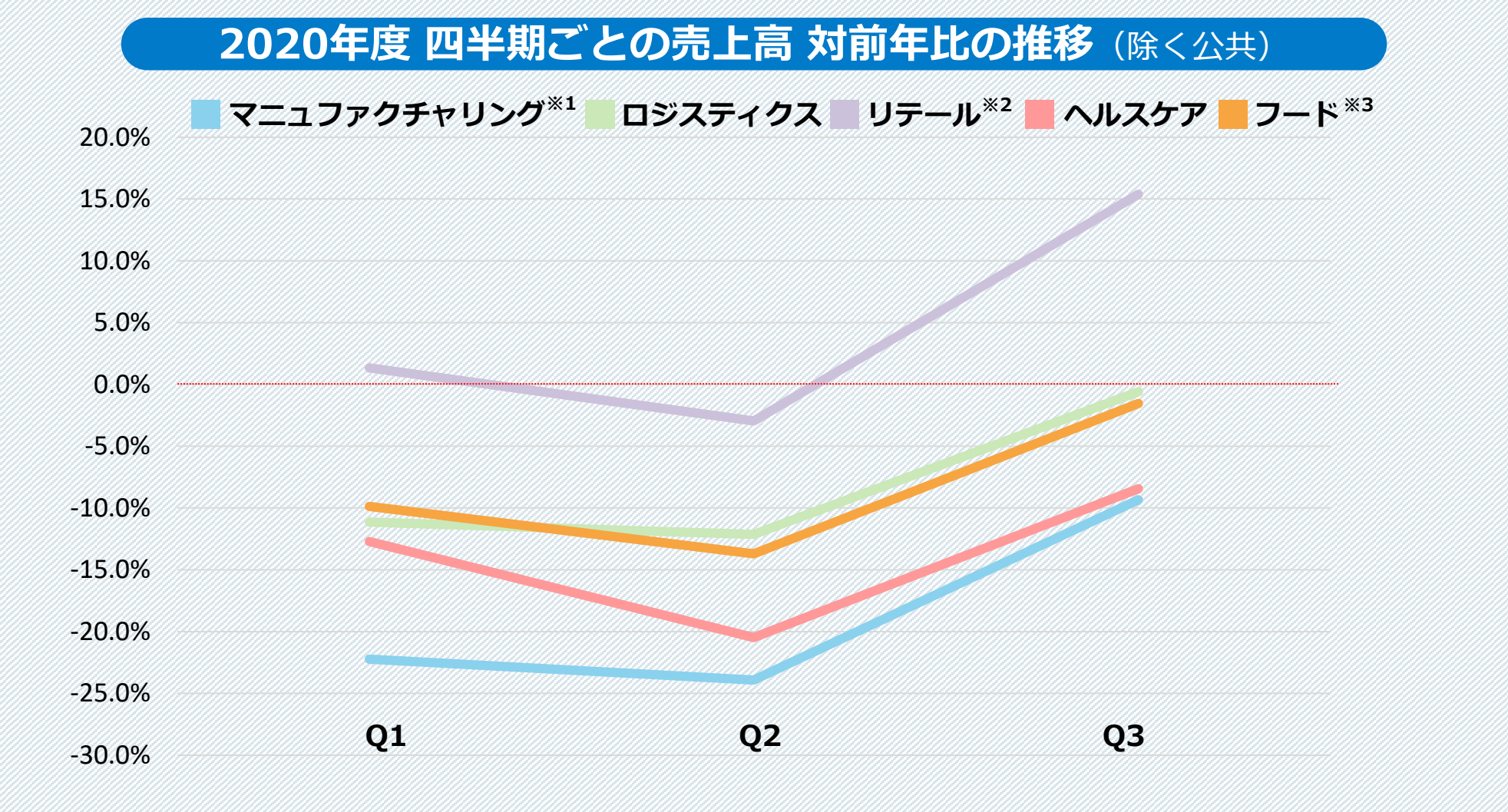
米州・欧州に続いて、アジア・オセアニアも回復トレンドに



売上推移（市場別）

全市場で回復トレンド。特にリテールが牽引

※1：旧FA
※2：旧リテール/アパレル
※3：旧食品



決算ハイライト

【連結】

各地域で回復スピードが速まるも、コロナによる当初減速をカバーするに至らず、前年同期比で減収・減益

【自動認識ソリューション事業　海外】

前年同期比で減収・減益

- ベース事業：改善傾向がさらに鮮明になるも、Q1の減速が響いて減収・減益
- プライマリー専業：生活インフラ業界に注力して堅調を継続。
  売上は微減も、原価率の低下等で大幅増益

【自動認識ソリューション事業　日本】

上期の施策成果の顕在化や、お客さまの生産再開等によって回復も、上期の減速が響いて前年同期比で減収・減益

事業セグメント別売上高及び営業利益

（単位：百万円）

		FY2020 Q3累計	FY2019 Q3累計	前年比	除く為替
自動認識ソリューション事業	売上高	79,135	87,508	-9.6%	-7.3%
	営業利益	3,822	6,710	-43.0%	-43.3%
海外	売上高	29,059	32,725	-11.2%	-5.0%
	営業利益	1,804	1,928	-6.4%	+2.5%
日本	売上高	50,075	54,782	-8.6%	-8.6%
	営業利益	2,018	4,782	-57.8%	-61.8%
IDP事業※	売上高	136	294	-53.8%	-53.4%
	営業利益	-148	-1,055	-	-
連結（消去後）	売上高	79,271	87,803	-9.7%	-7.4%
	営業利益	3,777	5,645	-33.1%	-33.5%

※IDP事業：2020年9月、全株式をDataLase Holdings Ltd.へ譲渡

事業セグメント別売上高及び営業利益

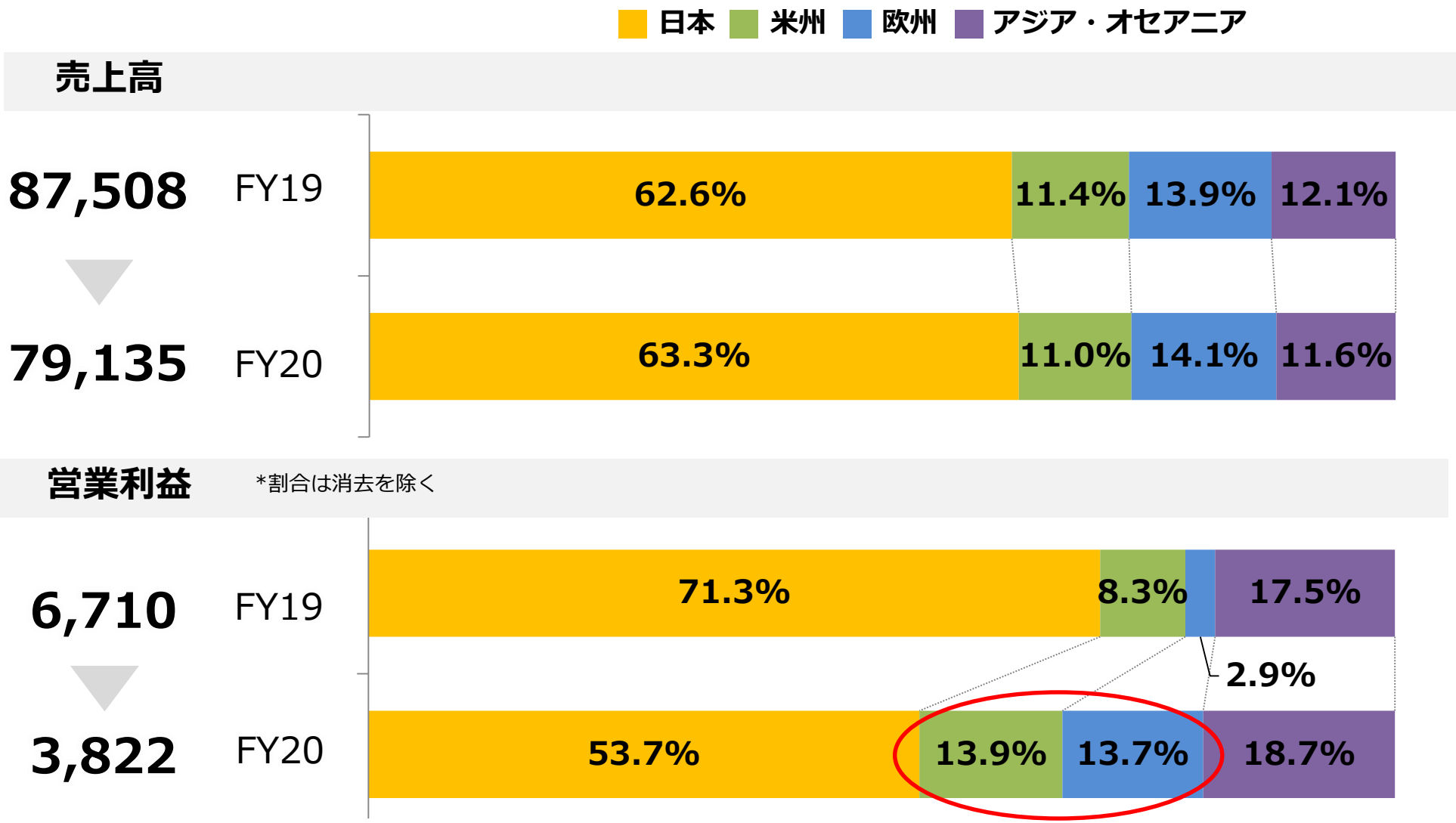
（単位：百万円）

		FY2020 Q3単体	FY2019 Q3単体	前年比	除く為替
自動認識ソリューション事業	売上高	29,398	29,827	-1.4%	+1.2%
	営業利益	2,213	2,471	-10.4%	-11.9%
海外	売上高	11,045	11,118	-0.7%	+6.4%
	営業利益	1,043	772	+35.1%	+45.7%
日本	売上高	18,352	18,709	-1.9%	-1.9%
	営業利益	1,170	1,698	-31.1%	-38.0%
IDP事業※	売上高	0	100	-	-
	営業利益	0	-317	-	-
連結（消去後）	売上高	29,398	29,928	-1.8%	+0.9%
	営業利益	2,307	2,103	+9.7%	+8.0%

※IDP事業：2020年9月、全株式をDataLase Holdings Ltd.へ譲渡

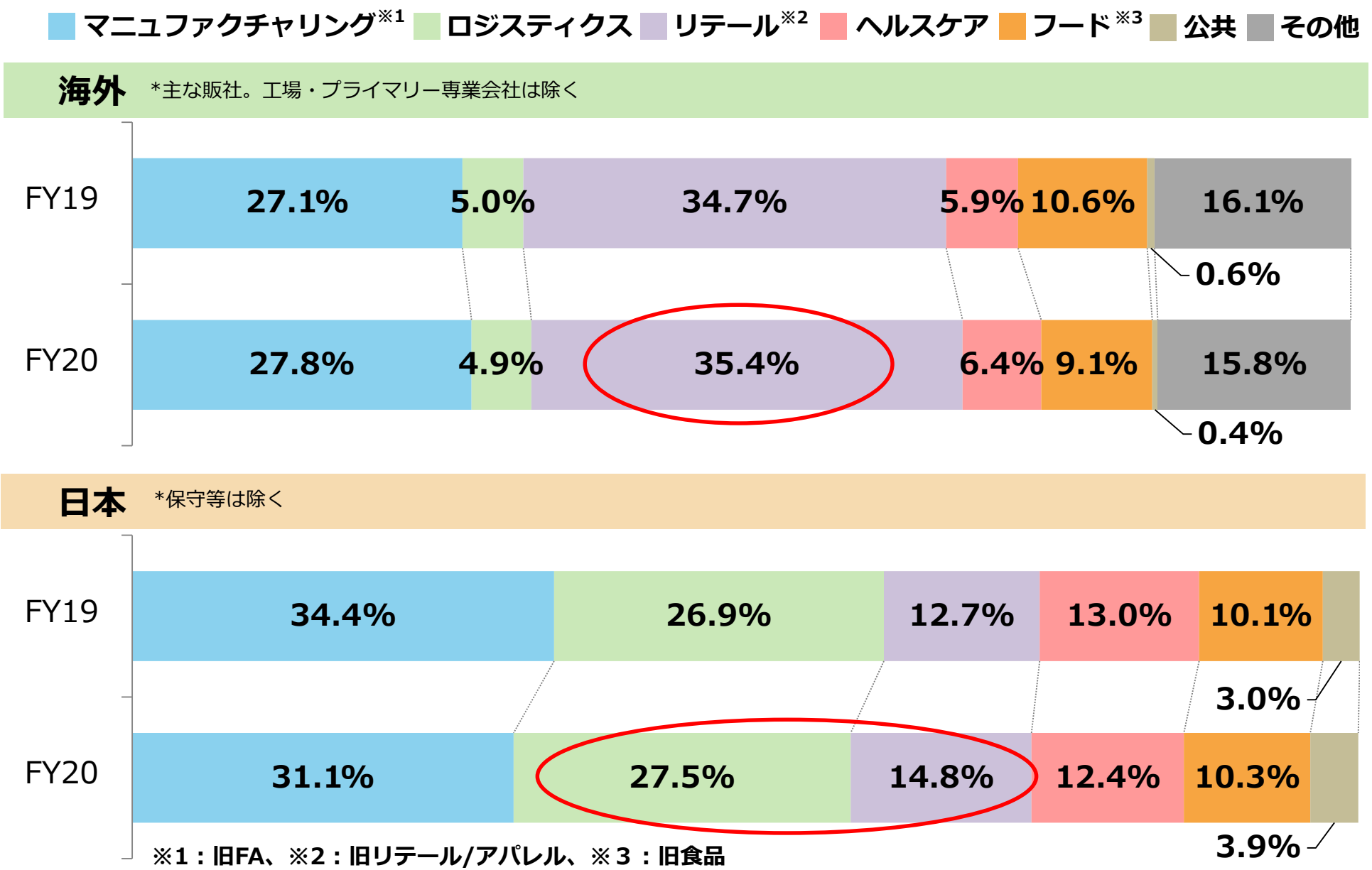
地域別売上高及び営業利益構成

（単位：百万円）



営業利益率　FY19　日本：8.7%、海外：5.9%
FY20　日本：4.0%、海外：6.2%

市場別売上高構成



※1：旧FA、※2：旧リテール/アパレル、※3：旧食品

業績

（単位：百万円）

	FY2020 Q3累計	FY2019 Q3累計	増減	前年比
売上高	79,271	87,803	-8,532	-9.7%
営業利益	3,777	5,645	-1,868	-33.1%
営業利益率	4.8%	6.4%	-1.7pt	-
経常利益	3,469	5,362	-1,892	-35.3%
親会社株主に帰属する四半期純利益 ※1	11,604	4,157	+7,447	2.8倍
実効税率 ※2	8.3%	30.0%	-21.8pt	
EBITDA ※3	7,030	10,096	-3,066	-30.4%

FY20 Q3累計 為替レート（期中平均）：106.11円/USD, 122.43円/EUR　（FY19 Q3累計 同為替レート：108.64円/USD, 121.02円/EUR）
為替感応度：すべての通貨が1円/USDの円安に連動した場合、売上高+352百万円、営業利益+3百万円（FY20通期ベース）

※1　FY20 Q3に旧本社売却にともなう固定資産売却益を計上
※2　IDP事業譲渡に伴い、前期末に計上したDataLase社株式の減損損失が損金算入され、法人税が減少
※3　EBITDA＝営業利益＋減価償却費＋のれん償却費
　　・減価償却　　FY20 Q3累計：3,084百万円　　FY19 Q3累計：3,794百万円
　　・のれん償却　FY20 Q3累計：　168百万円※4　　FY19 Q3累計：　656百万円（DataLase社 439百万円）
※4　FY19 Q4にDataLase社ののれん減損処理を実施

業績

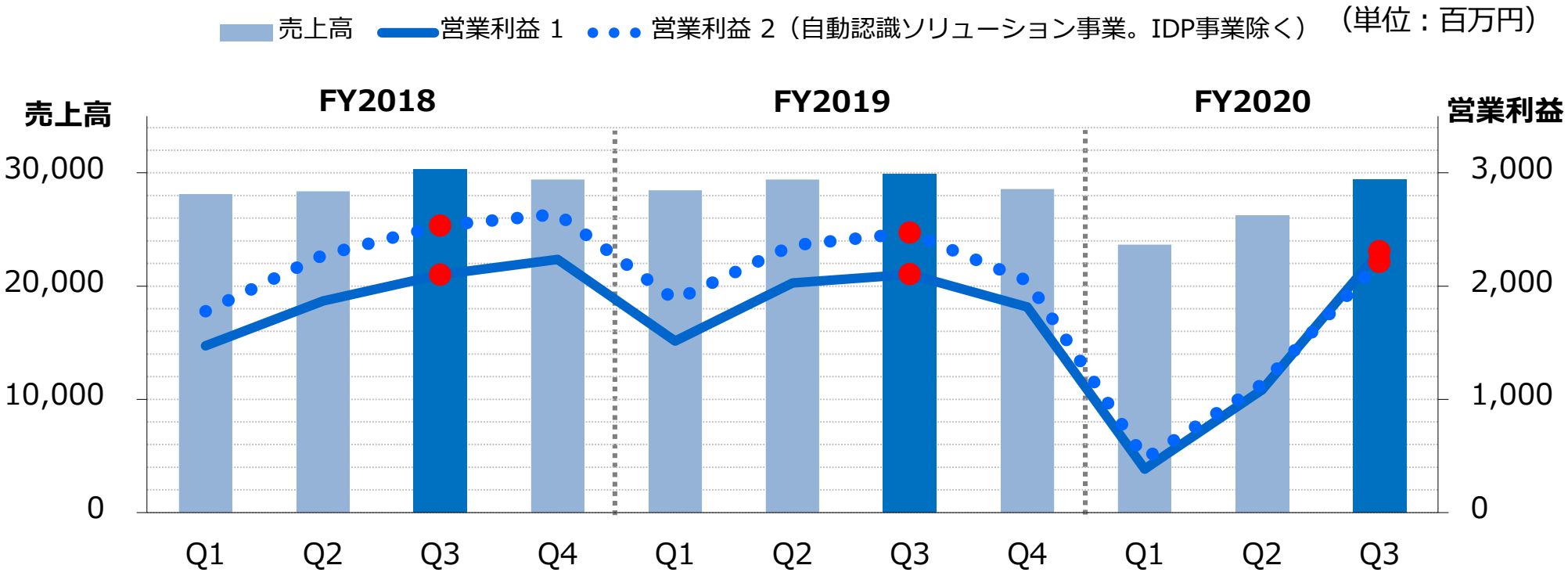
（単位：百万円）

	FY2020 Q3単体	FY2019 Q3単体	増減	前年比
売 上 高	29,398	29,928	-529	-1.8%
営業利益	2,307	2,103	+203	+9.7%
営業利益率	7.8%	7.0%	+0.8pt	-
経常利益	2,237	2,125	+112	+5.3%
親会社株主に帰属する四半期純利益 ※1	8,354	1,276	+7,077	6.5倍
実効税率	31.4%	36.6%	-5.2pt	
EBITDA ※2	3,379	3,608	-228	-6.3%

FY20 Q3累計 為替レート（期中平均）：106.11円/USD, 122.43円/EUR （FY19 Q3累計 同為替レート：108.64円/USD, 121.02円/EUR）
為替感応度：すべての通貨が1円/USDの円安に連動した場合、売上高+352百万円、営業利益+3百万円（FY20通期ベース）

※1 FY20 Q3に旧本社売却にともなう固定資産売却益を計上
※2 EBITDA＝営業利益＋減価償却費＋のれん償却費
・減価償却 FY20 Q3単体： 1,018百万円 FY19 Q3単体：1,285百万円
・のれん償却 FY20 Q3単体： 54百万円※3 FY19 Q3単体： 219百万円（DataLase社 148百万円）
※3 FY19 Q4にDataLase社ののれん減損処理を実施

売上高・営業利益 推移



売上高	28,118	28,371	30,272	29,417	28,463	29,411	29,928	28,569	23,651	26,221	29,398
前年比	+4.9%	+1.2%	+0.3%	+3.7%	+1.2%	+3.7%	-1.1%	-2.9%	-16.9%	-10.8%	-1.8%
営業利益 1	1,473	1,869	2,100	2,235	1,514	2,028	2,103	1,815	385	1,084	2,307
前年比	+73.1%	+9.7%	-0.9%	+42.0%	+2.7%	+8.5%	+0.1%	-18.8%	-74.5%	-46.5%	+9.7%
営業利益 2	1,777	2,274	2,534	2,635	1,878	2,360	2,471	2,047	476	1,132	2,213
前年比	+44.3%	+9.6%	+0.8%	+40.6%	+5.7%	+3.8%	-2.5%	-22.3%	-74.6%	-52.0%	-10.4%

総括

Q3 単体

・好調業界への直販による「コト売り」に注力した営業活動が奏功し、売上は横ばいまで回復。為替影響を除くと増収
・主にプライマリー専業の売上伸長と原価率低下が寄与して増益

（単位：百万円）

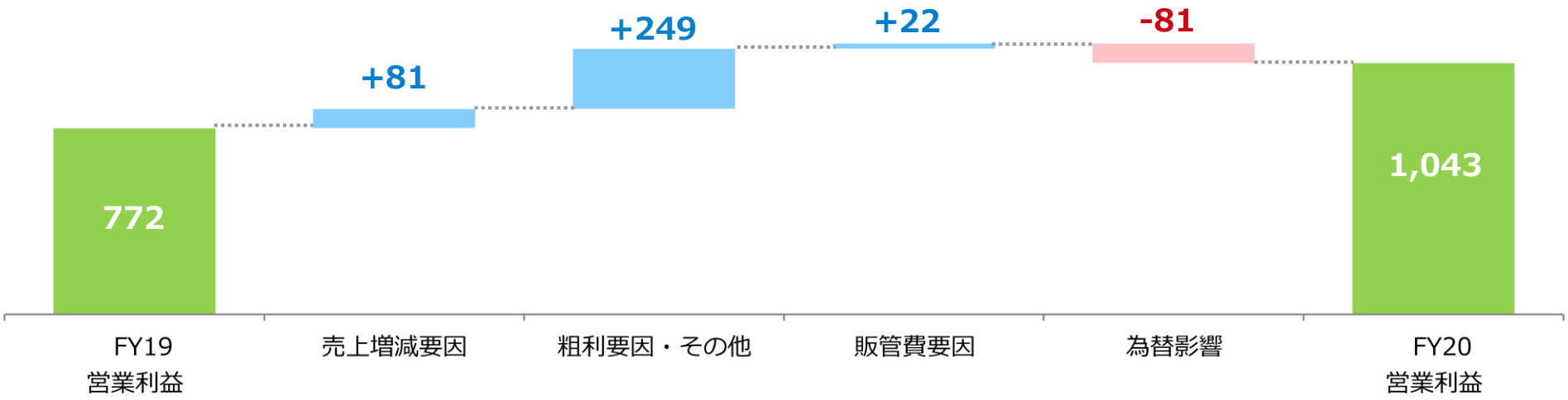
	FY2020 Q3	FY2019 Q3	増減	%	除く為替
売上高	**11,045**	**11,118**	**-72**	**-0.7%**	**+6.4%**
粗利額	4,093	4,004	+89	+2.2%	-
粗利率（外売）	37.1%	36.0%	+1.0pt	-	-
営業利益	**1,043**	**772**	**+270**	**+35.1%**	**+45.7%**
営業利益率	9.4%	6.9%	+2.5pt	-	-

	FY2020 累計	FY2019 累計	増減	%	除く為替
売上高	**29,059**	**32,725**	**-3,666**	**-11.2%**	**-5.0%**
粗利額	10,416	11,510	-1,093	-9.5%	-
粗利率（外売）	35.8%	35.2%	+0.7pt	-	-
営業利益	**1,804**	**1,928**	**-123**	**-6.4%**	**+2.5%**
営業利益率	6.2%	5.9%	+0.3pt	-	-

営業利益前年との比較

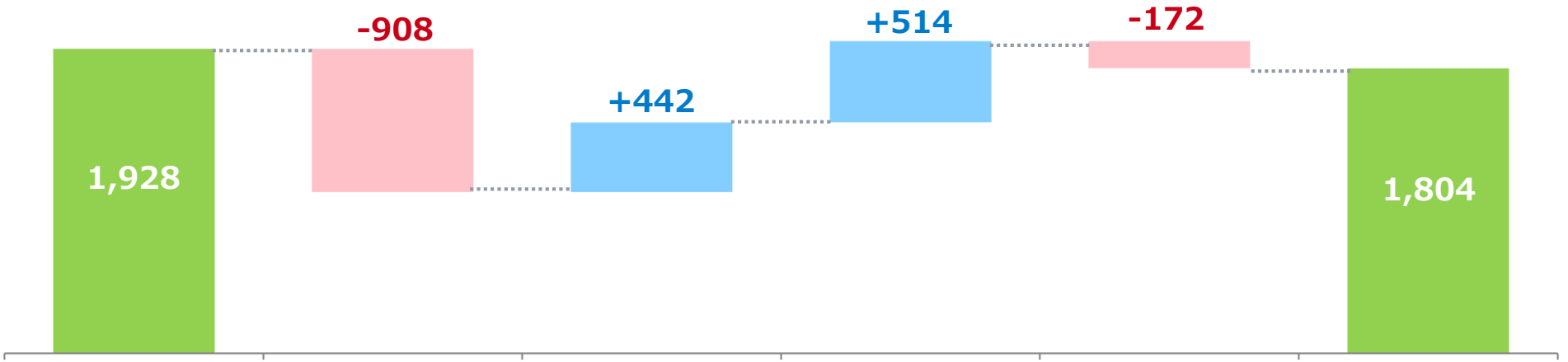
（単位：百万円）

Q3単体



各増減項目は、為替の影響を除いた数字

累計



事業別内訳

Q3
単体

ベース事業：食品スーパーや電気・電子部品など好調業界へのコト売りが奏功して、
売上・営業利益とも前年比でほぼ同水準まで回復
プライマリー専業：食品や飲料、製薬等の生活インフラを支える業界向けが牽引し、増収・増益

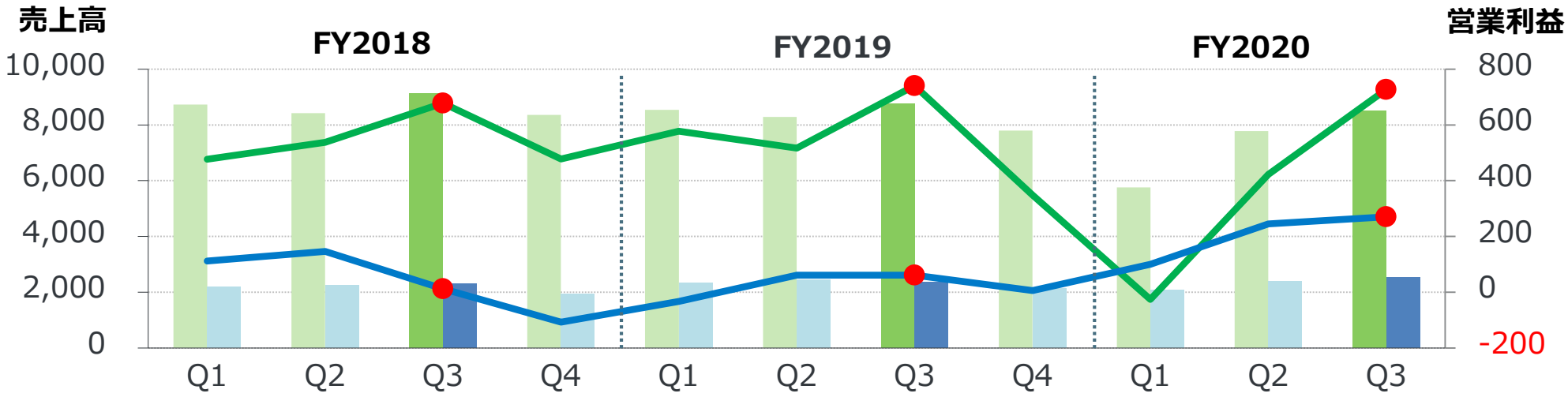
（単位：百万円）

		FY2020 Q3	FY2019 Q3	増減	%	除く為替
ベース事業	売上高	8,499	8,758	-258	-3.0%	-1.5%
	営業利益	727	740	-13	-1.8%	-1.1%
プライマリー専業	売上高	2,546	2,360	+186	+7.9%	+35.8%
	営業利益	270	61	+209	4.4倍	5.7倍
消去	営業利益	45	-29	+74	-	-
合計	売上高	11,045	11,118	-72	-0.7%	+6.4%
	営業利益	1,043	772	+270	+35.1%	+45.7%

		FY2020 累計	FY2019 累計	増減	%	除く為替
ベース事業	売上高	22,034	25,583	-3,549	-13.9%	-12.2%
	営業利益	1,124	1,836	-711	-38.8%	-37.9%
プライマリー専業	売上高	7,025	7,142	-116	-1.6%	+20.6%
	営業利益	616	88	+528	7.0倍	8.7倍
消去	営業利益	63	3	+60	18.5倍	18.5倍
合計	売上高	29,059	32,725	-3,666	-11.2%	-5.0%
	営業利益	1,804	1,928	-123	-6.4%	+2.5%

事業別 売上高・営業利益 推移

（単位：百万円）



		Q1	Q2	Q3	Q4	Q1	Q2	Q3	Q4	Q1	Q2	Q3
ベース	売上高	8,730	8,421	9,118	8,359	8,539	8,286	8,758	7,794	5,755	7,779	8,499
	前年比	+10.2%	+0.8%	+1.5%	-3.9%	-2.2%	-1.6%	-3.9%	-6.8%	-32.6%	-6.1%	-3.0%
	営業利益	477	538	678	478	577	517	740	348	-26	423	727
	前年比	+39.9%	-21.0%	-3.3%	18.7倍	+21.1%	-3.9%	+9.2%	-27.1%	-	-18.2%	-1.8%
プライマリー	売上高	2,180	2,264	2,301	1,939	2,328	2,453	2,360	2,128	2,089	2,389	2,546
	前年比	+0.8%	+4.8%	+2.9%	-5.9%	+6.8%	+8.3%	+2.5%	+9.7%	-10.3%	-2.6%	+7.9%
	営業利益	112	146	12	-107	-33	61	61	6	100	245	270
	前年比	2.4倍	5.6倍	-	-	-	-58.3%	4.9倍	-	-	4.0倍	4.4倍

自動認識ソリューション事業（海外）地域別内訳

米州

Q3 単体

ベース事業：好調な米国大手小売り向けに注力し、売上は前年比でほぼ横ばい。
メカトロが伸長して増益

プライマリー専業：アルゼンチンのAchernar社は飲料や化粧品業界向け、ブラジルのPrakolar社は製薬や飲料、化粧品業界向けが堅調に推移し、増収・増益

（単位：百万円）

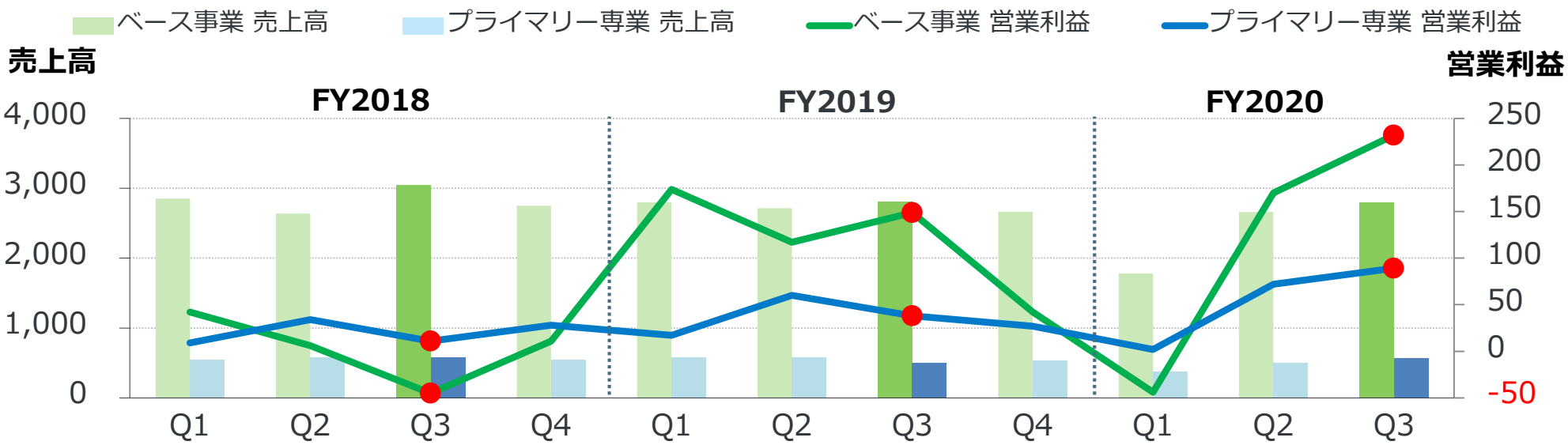
		FY2020 Q3	FY2019 Q3	増減		
					%	除く為替
ベース事業	売上高	2,794	2,811	-17	-0.6%	+4.8%
	営業利益	232	149	+82	+54.8%	+62.0%
プライマリー専業 ・Achernar社 ・Prakolar社	売上高	571	497	+74	+14.9%	+60.5%
	営業利益	89	38	+51	2.3倍	3.3倍
合計	売上高	3,366	3,309	+57	+1.7%	+13.1%
	営業利益	322	188	+133	+70.7%	+96.9%

		FY2020 累計	FY2019 累計	増減		
					%	除く為替
ベース事業	売上高	7,236	8,323	-1,087	-13.1%	-9.2%
	営業利益	358	441	-83	-18.9%	-15.2%
プライマリー専業 ・Achernar社 ・Prakolar社	売上高	1,448	1,661	-212	-12.8%	+24.0%
	営業利益	165	116	+48	+41.3%	2.0倍
合計	売上高	8,685	9,985	-1,300	-13.0%	-3.7%
	営業利益	523	558	-35	-6.3%	+10.4%

自動認識ソリューション事業（海外）地域別内訳

米州 売上高・営業利益 推移

（単位：百万円）



		Q1	Q2	Q3	Q4	Q1	Q2	Q3	Q4	Q1	Q2	Q3
ベース	売上高	2,854	2,640	3,043	2,753	2,797	2,714	2,811	2,664	1,781	2,660	2,794
	前年比	+2.7%	-9.0%	-0.6%	-9.4%	-2.0%	+2.8%	-7.6%	-3.2%	-36.3%	-2.0%	-0.6%
	営業利益	42	6	-45	11	174	117	149	42	-44	170	232
	前年比	-49.7%	-94.9%	-	-	4.1倍	17.0倍	-	3.8倍	-	+45.6%	+54.8%
プライマリー	売上高	546	584	587	550	577	586	497	536	378	498	571
	前年比	-16.9%	-12.4%	-9.9%	-19.6%	+5.6%	+0.4%	-15.2%	-2.5%	-34.5%	-15.0%	+14.9%
	営業利益	9	34	11	28	17	60	38	27	2	72	89
	前年比	-92.1%	2.5倍	-	-68.0%	+86.3%	+76.8%	3.2倍	-1.1%	-85.4%	+19.8%	2.3倍

自動認識ソリューション事業（海外）地域別内訳

欧州

Q3 単体

ベース事業：食品スーパーなどリテール市場に注力し、売上は微減で健闘。コロナ禍にあわせた営業スタイルへの移行などにより、コストが削減されて増益

プライマリー専業：ロシア2社にて食品やアルコール飲料などの需要を獲得して増収・増益

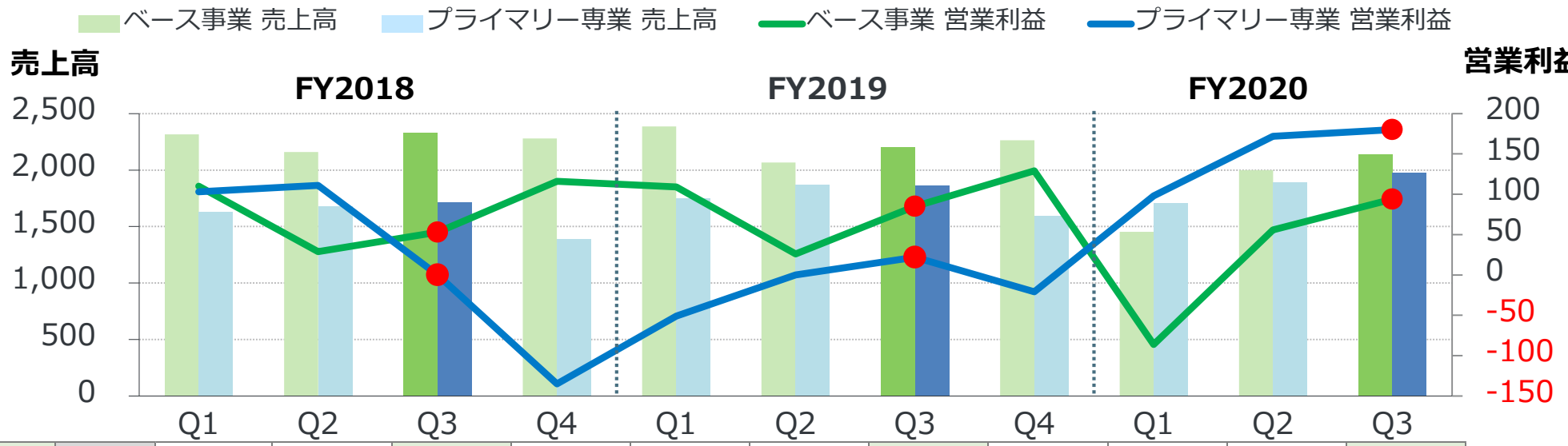
（単位：百万円）

		FY2020 Q3	FY2019 Q3	増減	増減 %	増減 除く為替
ベース事業	売上高	2,137	2,205	-68	-3.1%	-5.2%
	営業利益	94	85	+8	+9.6%	+10.0%
プライマリー専業 ・Okil社 ・X-Pack社	売上高	1,974	1,862	+112	+6.0%	+29.2%
	営業利益	180	22	+158	8.0倍	9.7倍
合計	売上高	4,111	4,067	+43	+1.1%	+10.6%
	営業利益	274	108	+166	2.5倍	2.9倍

		FY2020 累計	FY2019 累計	増減	増減 %	増減 除く為替
ベース事業	売上高	5,591	6,658	-1,067	-16.0%	-16.5%
	営業利益	64	221	-157	-71.0%	-70.2%
プライマリー専業 ・Okil社 ・X-Pack社	売上高	5,576	5,480	+96	+1.8%	+19.5%
	営業利益	451	-28	+479	-	-
合計	売上高	11,167	12,139	-971	-8.0%	-0.3%
	営業利益	515	192	+322	2.7倍	3.1倍

欧州 売上高・営業利益 推移

（単位：百万円）



		Q1	Q2	Q3	Q4	Q1	Q2	Q3	Q4	Q1	Q2	Q3
ベース	売上高	2,315	2,160	2,330	2,279	2,386	2,066	2,205	2,264	1,453	2,000	2,137
	前年比	+20.8%	+6.3%	+7.6%	+1.2%	+3.1%	-4.4%	-5.4%	-0.7%	-39.1%	-3.2%	-3.1%
	営業利益	110	29	53	116	109	26	85	129	-86	56	94
	前年比	2.5倍	-17.2%	+10.6%	+4.5%	-0.8%	-10.7%	+61.7%	+11.1%	-	2.2倍	+9.6%
プライマリー	売上高	1,633	1,680	1,714	1,388	1,751	1,867	1,862	1,591	1,711	1,891	1,974
	前年比	+8.6%	+12.5%	+8.1%	+1.0%	+7.2%	+11.1%	+8.6%	+14.6%	-2.3%	+1.3%	+6.0%
	営業利益	103	111	0	-135	-51	0	22	-21	98	172	180
	前年比	-	9.1倍	3.8倍	-	-	-99.7%	36.2倍	-	-	503.7倍	8.0倍

アジア・オセアニア

Q3 単体

ベース事業：売上構成比の高い製造業が回復に時間を要して減収・減益。
ただし、回復が先行した中国は増収・増益

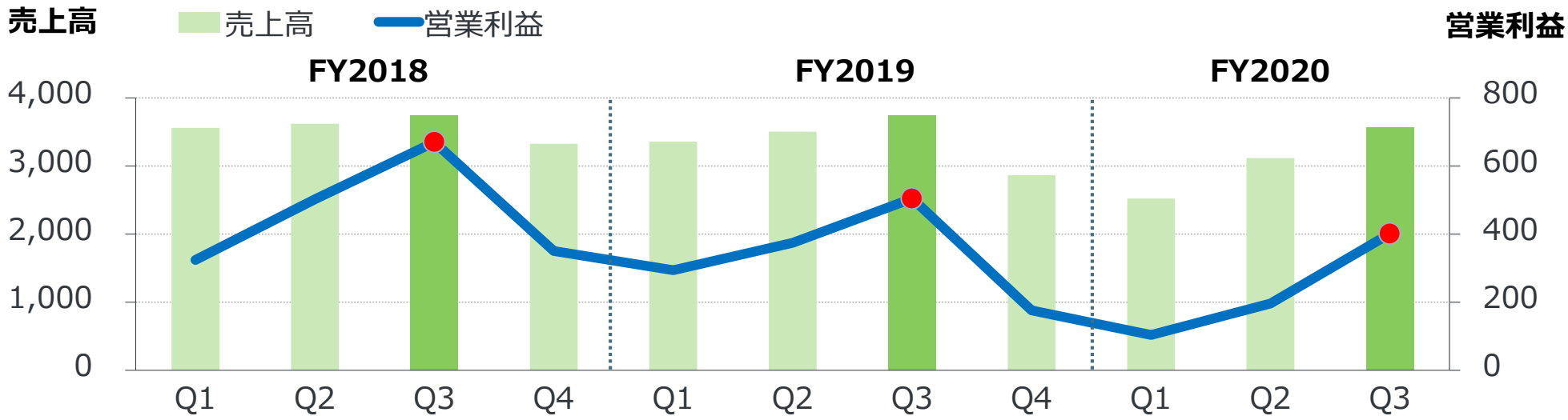
（単位：百万円）

		FY2020 Q3	FY2019 Q3	増減	増減 %	増減 除く為替
ベース事業	売上高	3,567	3,740	-173	-4.6%	-4.1%
	営業利益	401	504	-103	-20.5%	-21.7%

		FY2020 累計	FY2019 累計	増減	増減 %	増減 除く為替
ベース事業	売上高	9,206	10,601	-1,395	-13.2%	-11.7%
	営業利益	701	1,173	-471	-40.2%	-40.4%

アジア・オセアニア 売上高・営業利益 推移

（単位：百万円）



		Q1	Q2	Q3	Q4	Q1	Q2	Q3	Q4	Q1	Q2	Q3
ベース	売上高	3,560	3,620	3,743	3,326	3,355	3,504	3,740	2,865	2,520	3,117	3,567
	前年比	+10.3%	+5.8%	-0.4%	-2.3%	-5.8%	-3.2%	-0.1%	-13.9%	-24.9%	-11.1%	-4.6%
	営業利益	324	502	670	350	294	374	504	176	104	196	401
	前年比	+52.3%	-1.8%	+37.9%	+18.8%	-9.4%	-25.5%	-24.7%	-49.7%	-64.5%	-47.6%	-20.5%

総括

Q3
単体

・減収・減益だが、営業活動やお客さまの生産活動の回復で、主にサプライが牽引してQoQでは売上・営業利益ともに改善
・市場別では、リテールが力強く牽引

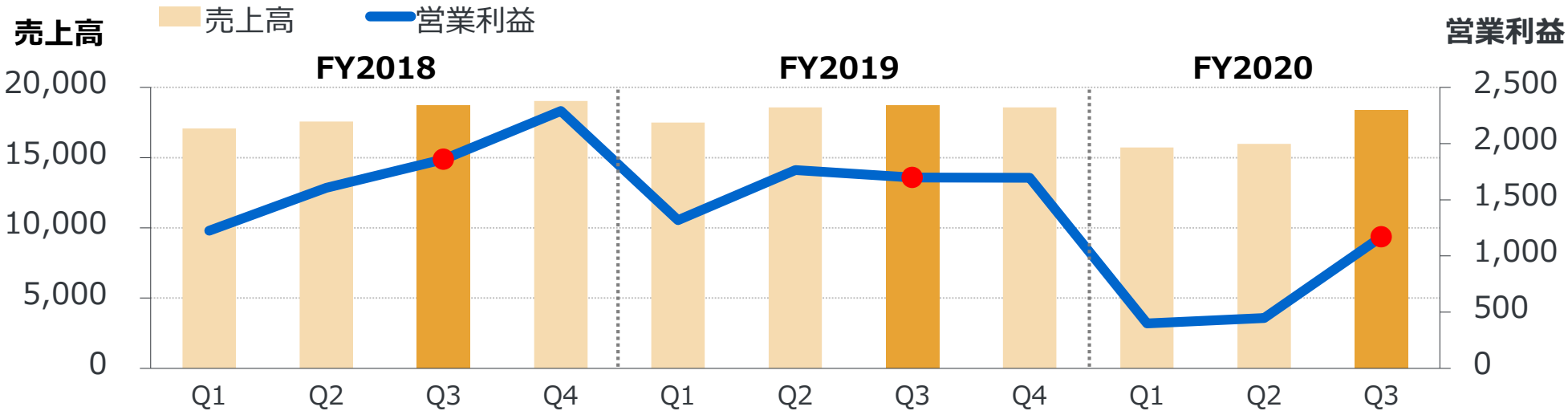
（単位：百万円）

	FY2020 Q3	FY2019 Q3	増減	前年比
メカトロ売上高	7,027	7,456	-428	-5.7%
サプライ売上高	11,325	11,253	+71	+0.6%
外部売上高 計	**18,352**	**18,709**	**-356**	**-1.9%**
粗利額	8,662	9,136	-473	-5.2%
粗利率（外売）	47.2%	48.8%	-1.6pt	-
営業利益	**1,170**	**1,698**	**-528**	**-31.1%**
営業利益率	6.4%	9.1%	-2.7pt	-

	FY2020 累計	FY2019 累計	増減	前年比
メカトロ売上高	19,524	22,086	-2,561	-11.6%
サプライ売上高	30,551	32,696	-2,145	-6.6%
外部売上高 計	**50,075**	**54,782**	**-4,707**	**-8.6%**
粗利額	23,616	27,194	-3,578	-13.2%
粗利率（外売）	47.2%	49.6%	-2.5pt	-
営業利益	**2,018**	**4,782**	**-2,764**	**-57.8%**
営業利益率	4.0%	8.7%	-4.7pt	-

売上高・営業利益 推移

（単位：百万円）

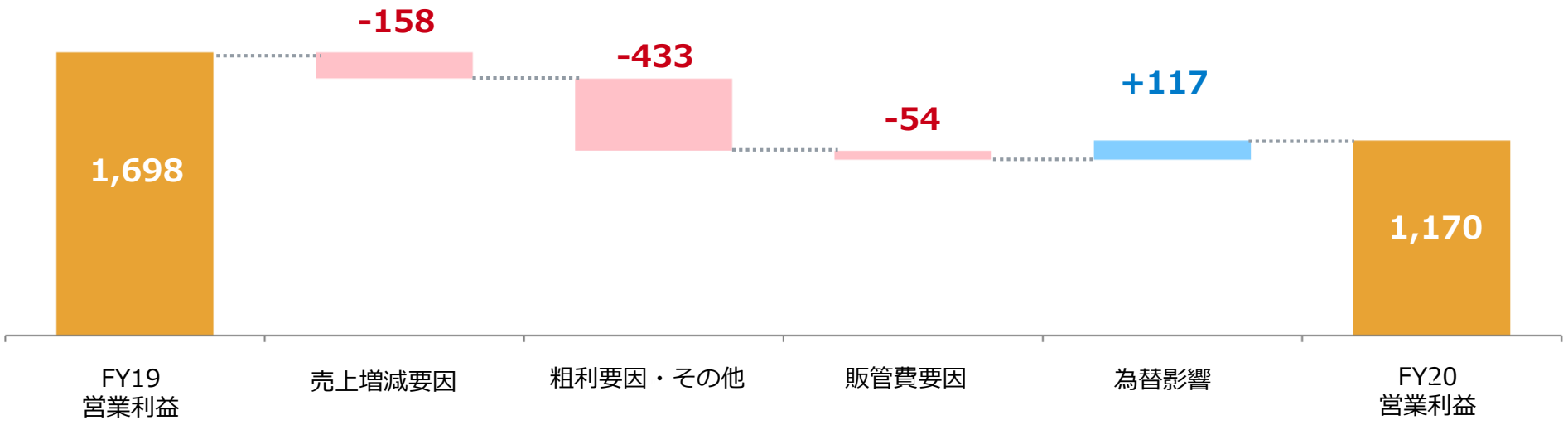


売上高	17,081	17,579	18,736	19,037	17,495	18,578	18,709	18,578	15,730	15,991	18,352
前年比	+2.7%	+0.9%	-0.9%	+8.7%	+2.4%	+5.7%	-0.1%	-2.4%	-10.1%	-13.9%	-1.9%
営業利益	1,224	1,606	1,860	2,291	1,318	1,765	1,698	1,697	399	448	1,170
前年比	+41.9%	+19.4%	+0.5%	+29.3%	+7.7%	+9.8%	-8.7%	-25.9%	-69.7%	-74.6%	-31.1%

営業利益前年との比較

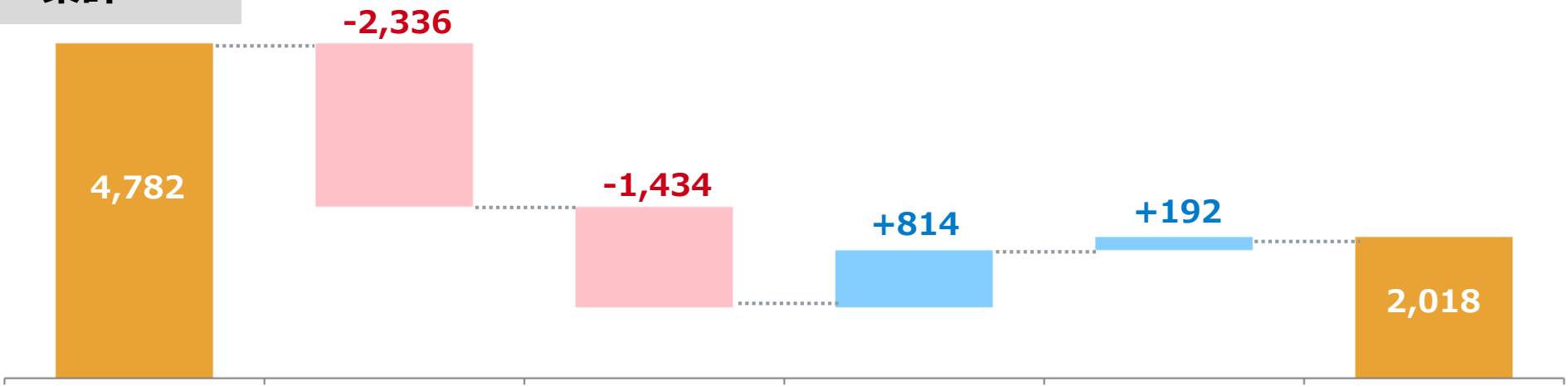
（単位：百万円）

Q3単体



各増減項目は、為替の影響を除いた数字

累計

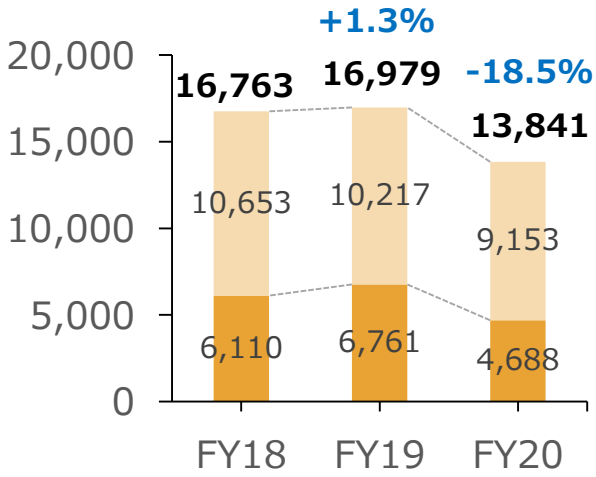


市場別売上高推移

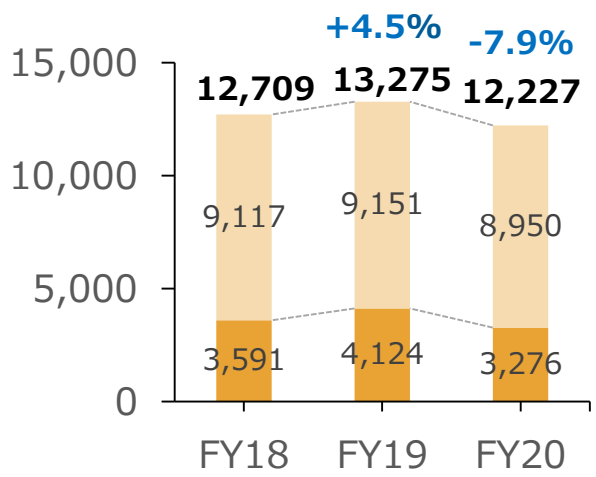
■：メカトロ　■：サプライ　※%は前年比　（単位：百万円）

※1：旧FA
※2：旧リテール/アパレル
※3：旧食品

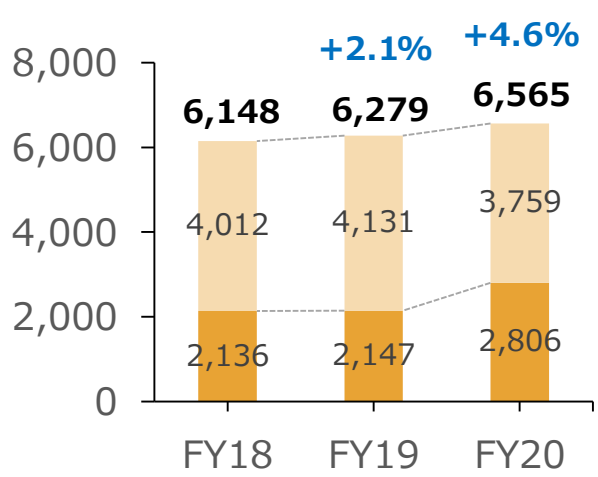
マニュファクチャリング ※1



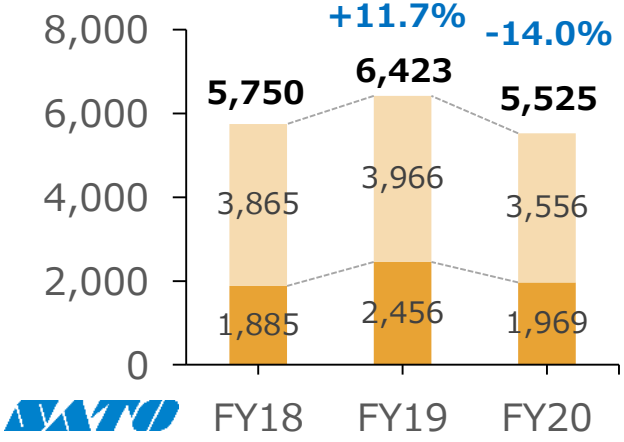
ロジスティクス



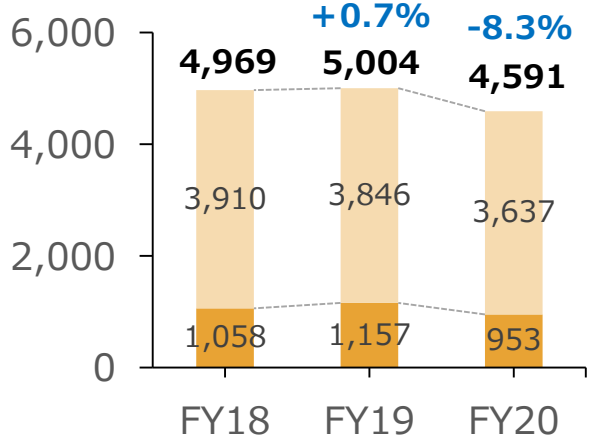
リテール ※2



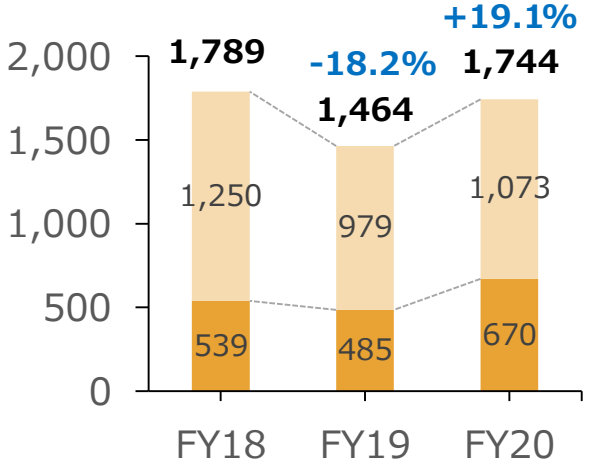
ヘルスケア



フード ※3



公共



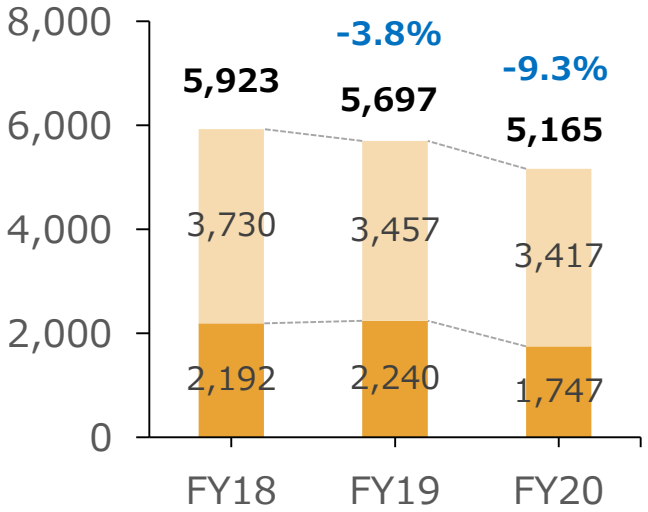
市場別売上高推移　(1-2)

（単位：百万円）

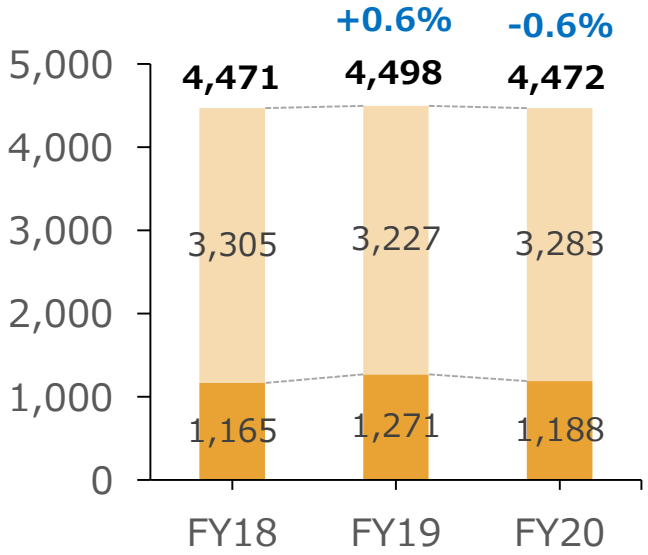
■：メカトロ　■：サプライ　※%は前年比

※1：旧FA
※2：旧リテール/アパレル

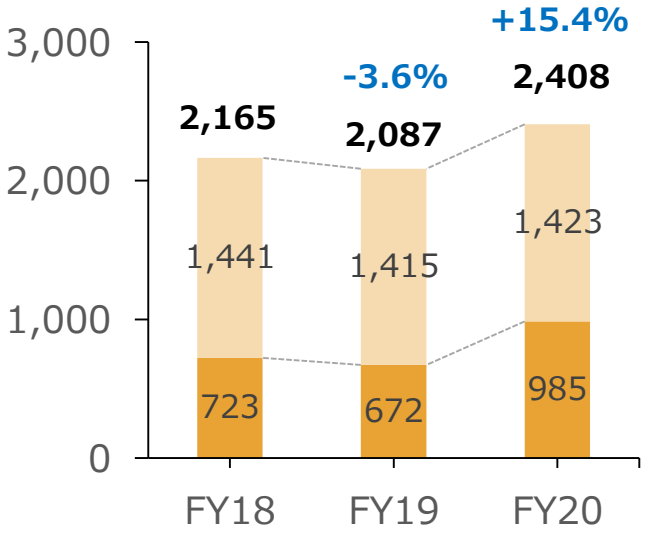
マニュファクチャリング ※1



ロジスティクス



リテール ※2



事業環境	生産活動が回復傾向にあり、QoQでは、多くの業界で前年比マイナス幅が縮小	EC業界の活況により物量増加。人手不足対応に加えて、従業員の安全確保へのニーズが高まる	主に食品スーパーが活況。専門店は実店舗での売上減により低調も、EC化を急ぐ企業が増加
当社状況	メカトロは上期からの営業施策の効果が徐々に顕在化して回復の兆し。サプライは伸びている需要を獲得して急回復し、YoYでほぼフラットに	主に好調なEC業界のニーズを獲得し、メカトロ、サプライともにQoQで回復。特にサプライは同業界の取扱量増加によってYoYでも増加	食品スーパーの旺盛な投資意欲を捉えたプリンタの大口案件等により、メカトロ伸長。食品スーパーやEC向けにサプライも増加

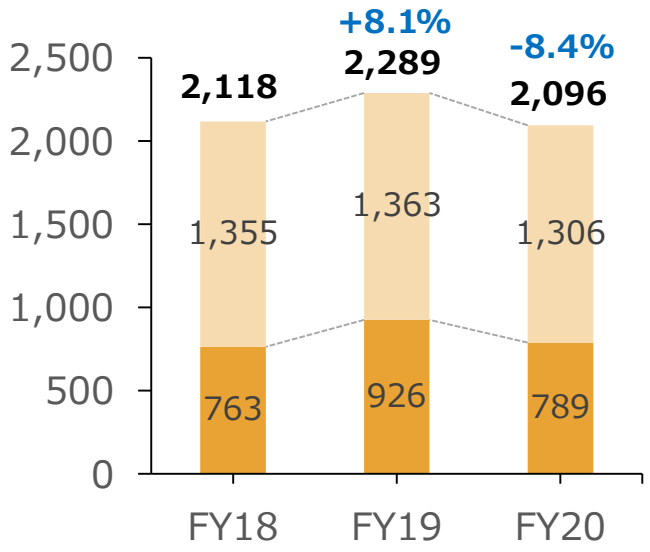
市場別売上高推移　(2-2)

（単位：百万円）

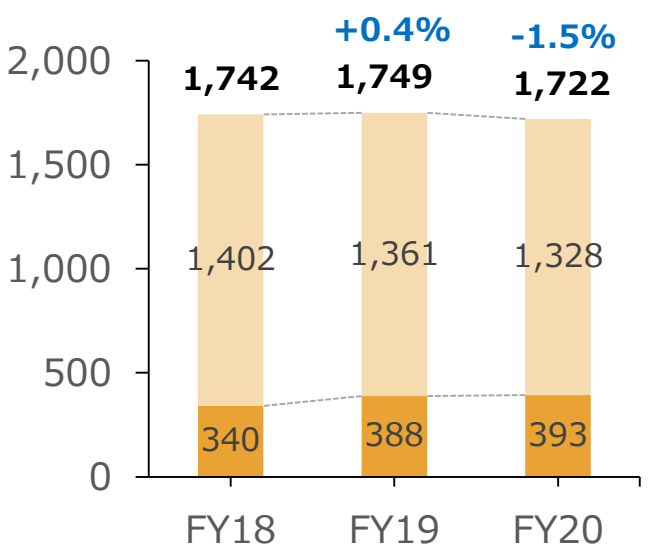
■：メカトロ　■：サプライ　※%は前年比

※3：旧食品

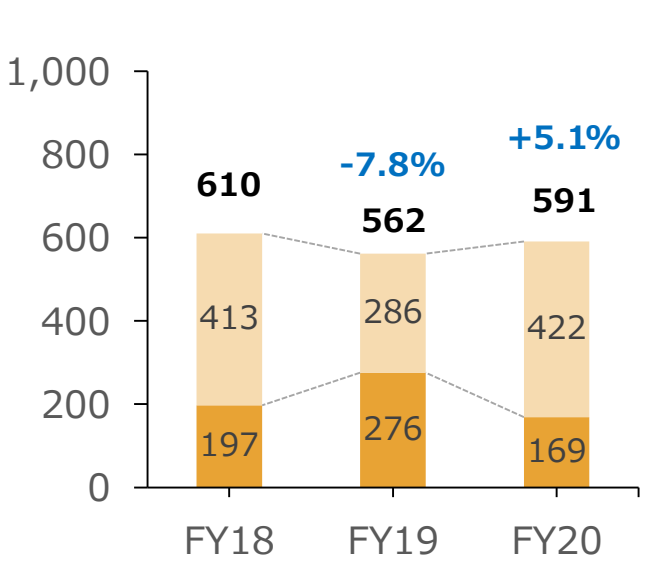
ヘルスケア



フード ※3



公共



	ヘルスケア	フード	公共
事業環境	医療機関への外来者数が回復傾向にあり、市場全体の物量の前年比マイナス幅が緩やかに	巣ごもり需要の継続により、内食・中食が堅調。外食向けや業務用の需要は低調	全般に外部環境は安定。業務効率化の商談が増加
当社状況	メカトロは上期から取り組んできた営業施策の効果が徐々に顕在化して回復基調。サプライは物量回復を取り込んでQoQで増加	好調業界での自動化や効率化関連機器の導入が順調に進み、メカトロ増加。サプライは外食向け食品製造が低調も、全般にはQoQで回復	メカトロは案件が増加するも、前年同期の大口案件の反動により減少。大口顧客からの受注増加によりサプライ伸長

2020年度　業績計画

（単位：百万円）

	Q3累計		Q4		通期	
	実績	前年比	計画	前年比	計画 ( )内は11月10日時点	前年比
売 上 高	79,271	-9.7%	26,728	-6.4%	106,000 (102,500)	-8.9%
営業利益	3,777	-33.1%	1,322	-27.1%	5,100 (3,600)	-31.6%
経常利益	3,469	-35.3%	1,230	+1.7%	4,700 (3,300)	-28.5%
親会社株主に帰属する当期純利益	11,604	2.8倍	-1,204	-	10,400 (9,400)	-
	<参考>					
EBITDA※	13,376	←2019年度通期			9,800 (8,300)	-26.7%

※ EBITDA＝営業利益＋減価償却費＋のれん償却費

FY20 想定レート　　：106円/USD, 123円/EUR
FY20 Q3累計為替レート (期中平均)：106.11円/USD, 122.43円/EUR
FY19 通期為替レート (期中平均)：108.69円/USD, 120.79円/EUR

Appendix

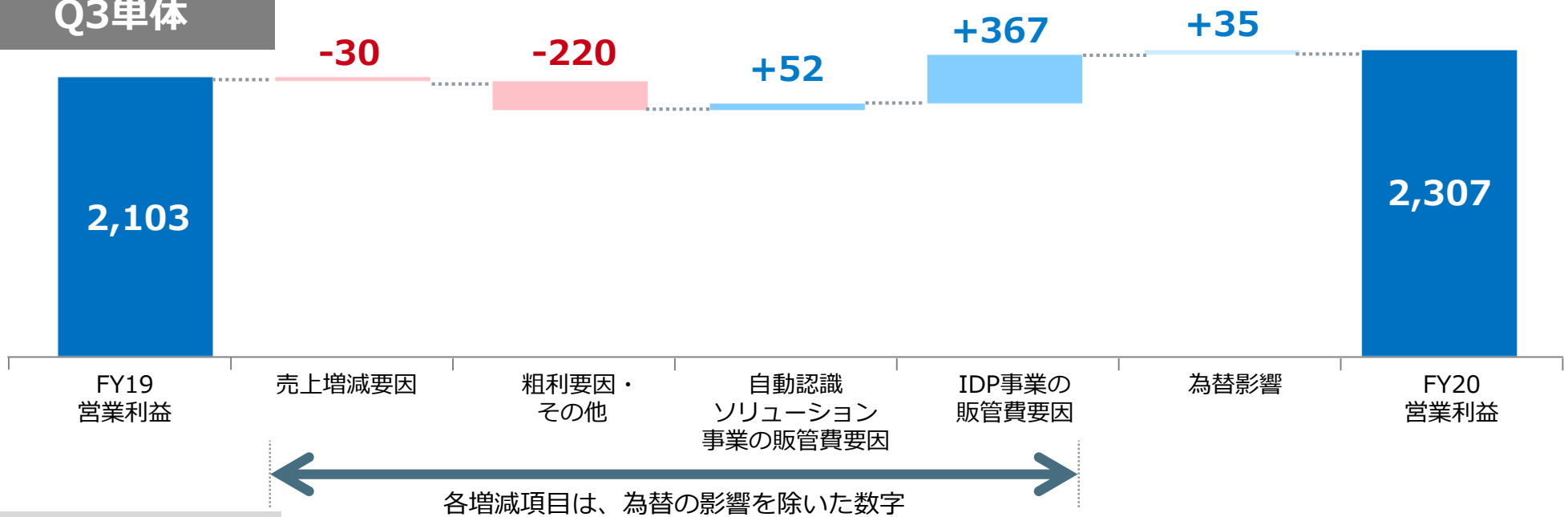
補足資料　P.30～P.35

用語集　P.36～P.39

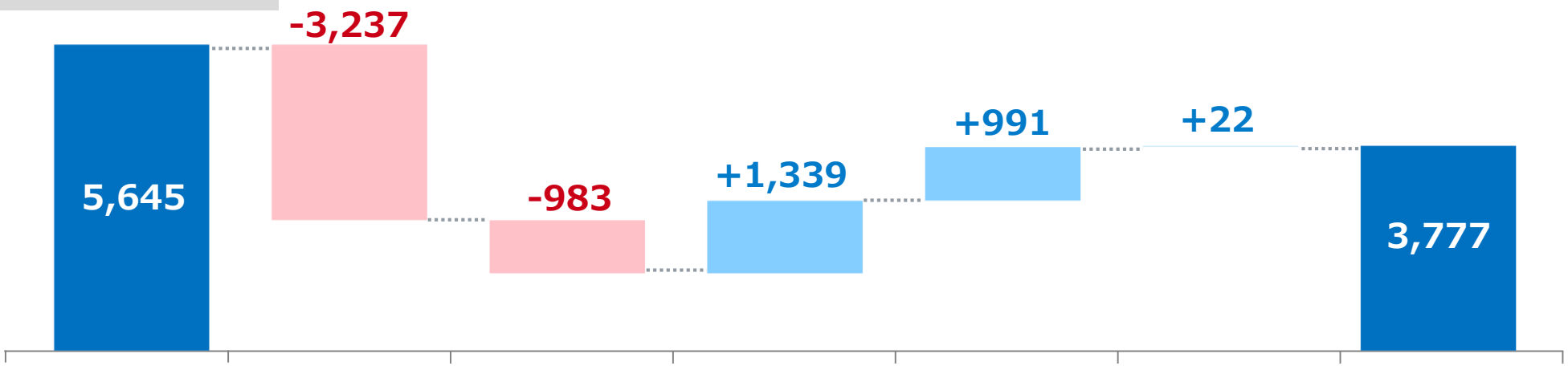
営業利益前年との比較

（単位：百万円）

Q3単体

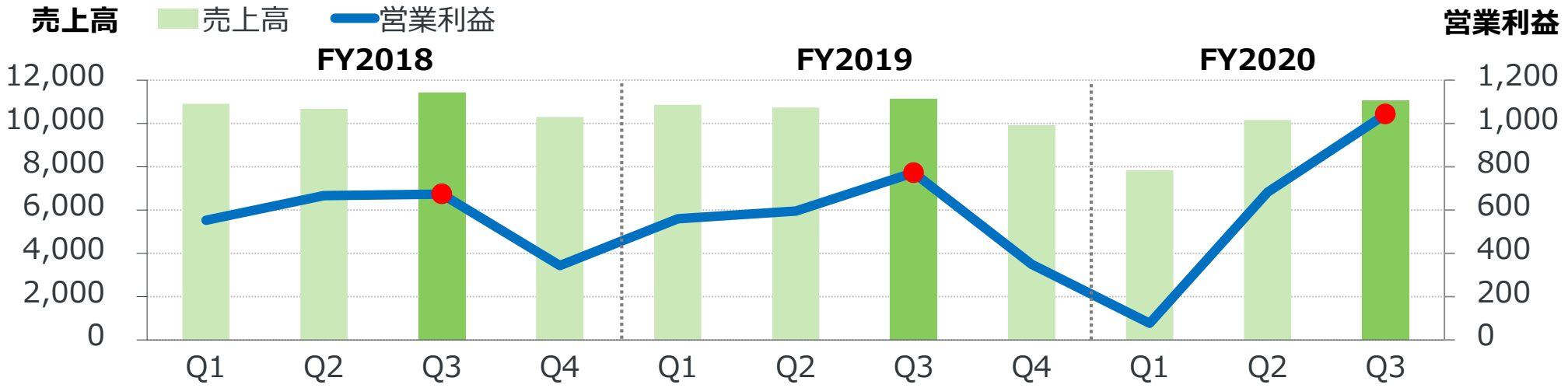


累計



売上高・営業利益 推移

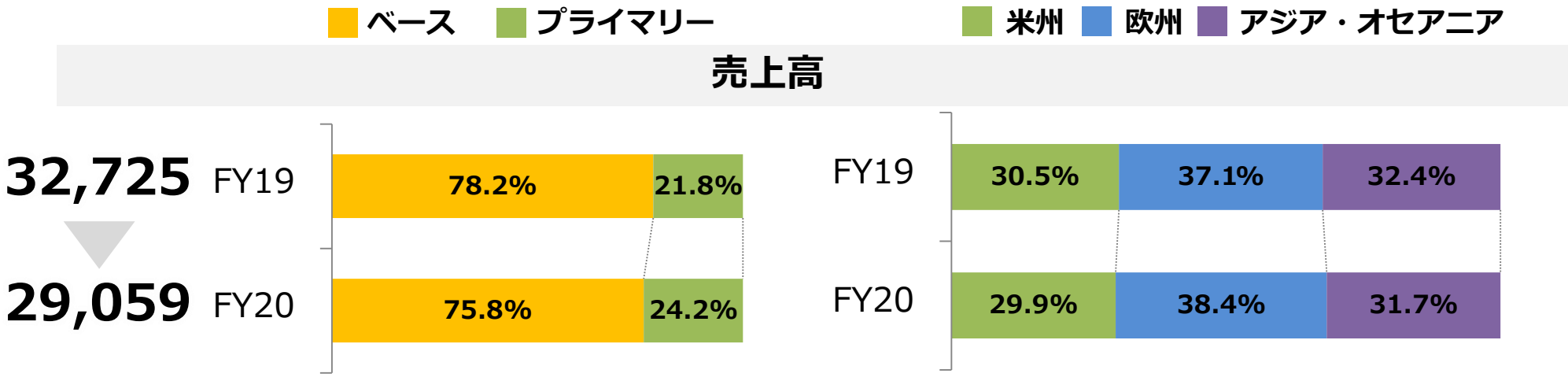
（単位：百万円）

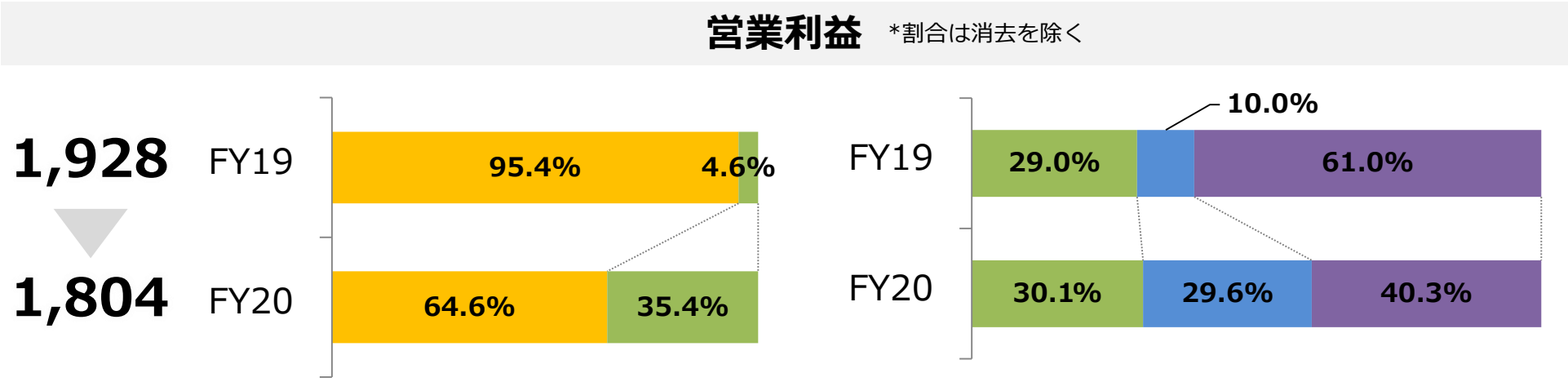


売上高	10,910	10,686	11,419	10,298	10,867	10,739	11,118	9,922	7,844	10,168	11,045
前年比	+8.2%	+1.6%	+1.7%	-4.2%	-0.4%	+0.5%	-2.6%	-3.7%	-27.8%	-5.3%	-0.7%
営業利益	553	667	674	344	560	595	772	349	77	683	1,043
前年比	+49.8%	-8.6%	+1.6%	3.4倍	+1.2%	-10.7%	+14.6%	+1.4%	-86.1%	+14.8%	+35.1%

売上高及び営業利益構成 (事業別・地域別)

（単位：百万円）





営業利益率：
FY19　ベース：7.2%、プライマリー：1.2%
FY20　ベース：5.1%、プライマリー：8.8%

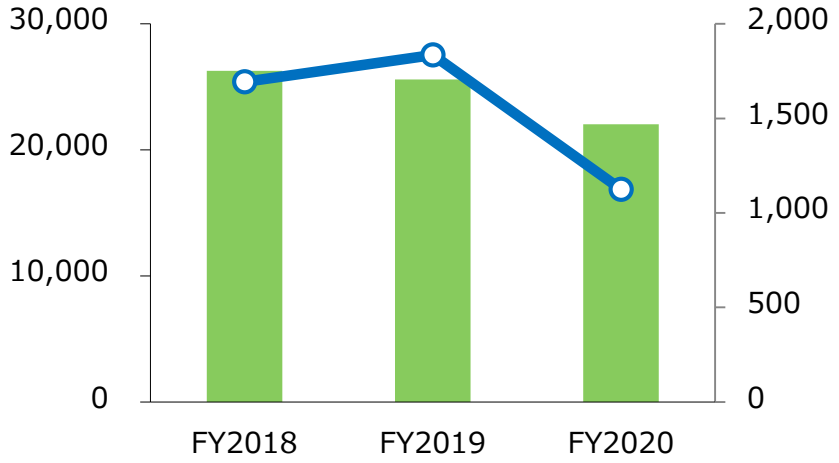
FY19 米州：5.6%、欧州：1.6%、アジア・オセアニア：11.1%
FY20 米州：6.0%、欧州：4.6%、アジア・オセアニア：7.6%

事業別及び地域別売上高及び営業利益推移

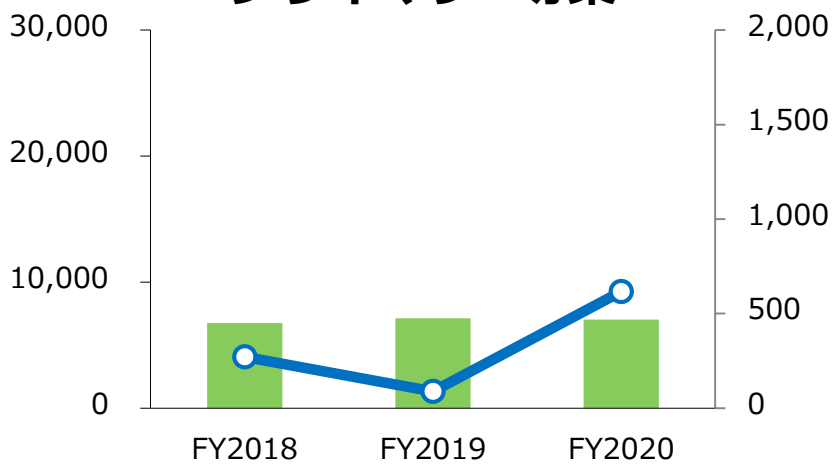
事業別

売上高　営業利益　（単位：百万円、左軸：売上高、右軸：営業利益）

ベース事業

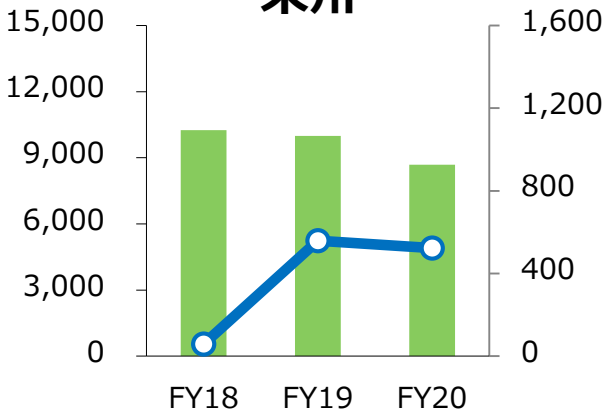


プライマリー専業

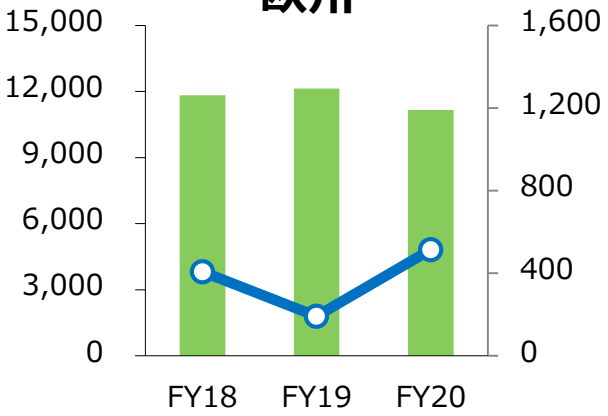


地域別

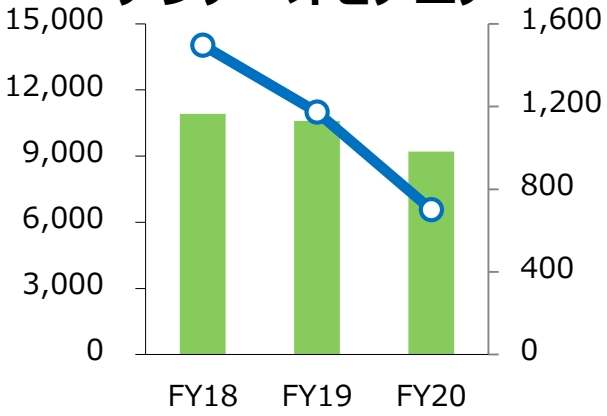
米州



欧州

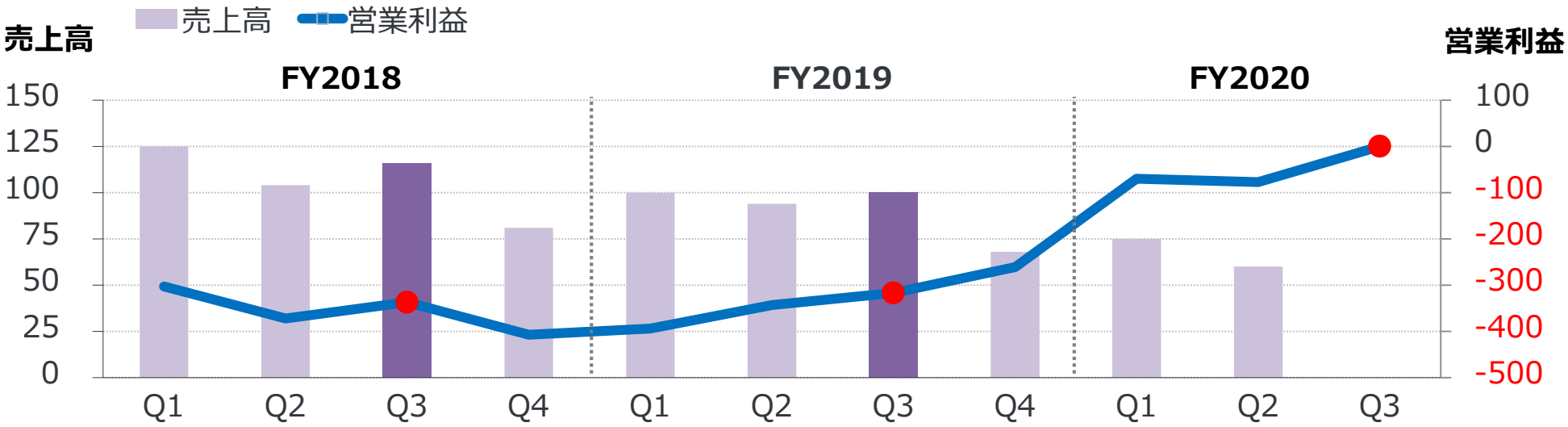


アジア・オセアニア



売上高・営業利益 推移

（単位：百万円）

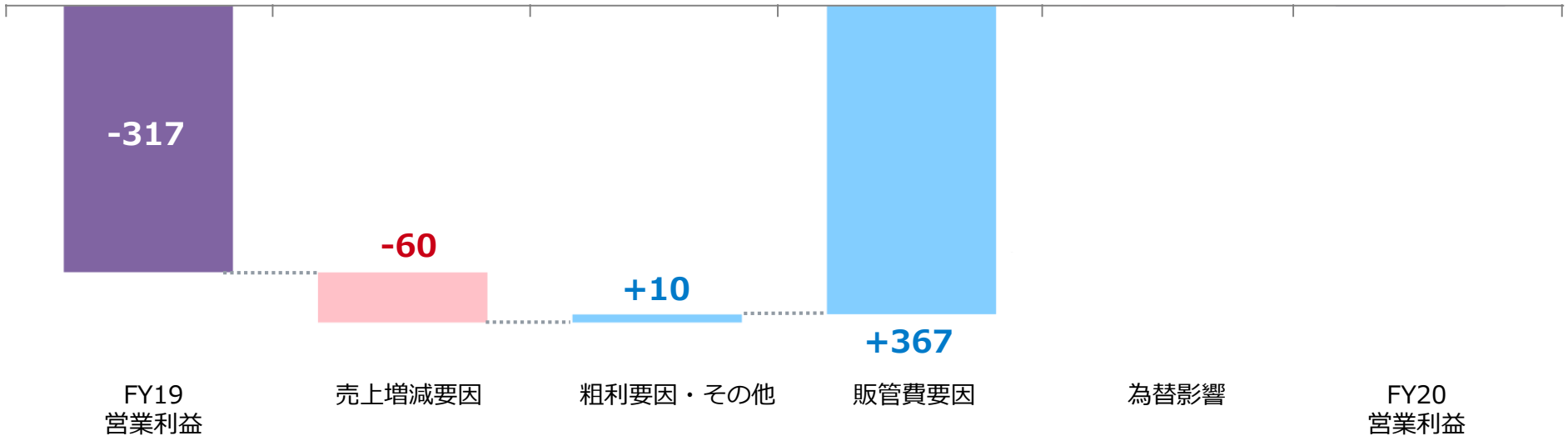


売上高	125	104	116	81	100	94	100	68	75	60	0
前年比	+53.2%	+34.0%	2.1倍	-18.9%	-20.0%	-10.0%	-13.8%	-15.5%	-24.6%	-35.9%	-
営業利益	-303	-372	-337	-407	-394	-343	-317	-261	-70	-77	0
前年比	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

営業利益前年との比較

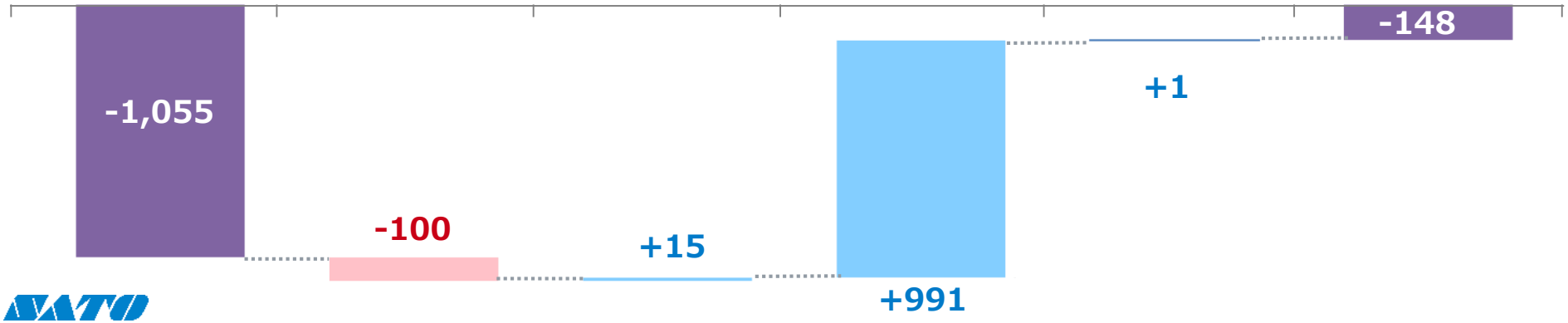
（単位：百万円）

Q3単体



累計

各増減項目は、為替の影響を除いた数字



用語集（1/4）

サトー独自のコンセプト/取組		説明※
1	自動認識ソリューション事業	DCS & Labeling+Oneを展開。具体的には、お客さまの課題に基づいて自社で開発・製造したバーコードプリンタやラベル、自社で設計したソフトウェアやサービス、外部パートナーの技術や商品などを組み合わせて提供。本事業は海外と日本に区分され、海外はベース事業とプライマリー専業から構成される。
2	ベース事業	現場でバーコードなどの可変情報をタギングするビジネス。
3	プライマリー専業	商品ラベルなどの固定情報ラベルをタギングするビジネス。Achernar（アルゼンチン）、Prakolar（ブラジル）、Okil（ロシア）、X-Pack（ロシア）の4社からなる。
4	IDP事業	IDP (Inline Digital Printing)に関わる開発・製造・販売。旧「素材事業」。2020年9月、本事業を推進していた連結子会社DataLase Ltd.の全株式をDataLase Holdings Ltd.へ譲渡。
5	コト売り	商品の単品売りではなくハードウエアやサプライ、保守サービス、ソフトウェア等を組み合わせたソリューションを、ROIの提示を含めて提案する売り方。単品売りの「モノ売り」に対する概念。
6	タギング	お客さまの現場で人やモノにIDや位置などの情報を物理的にひも付けし、それを上位システムに受け渡すこと。すなわち現物と情報を一致（情物一致）させ、デジタル化された情報を活用できるようにする作業。
7	DCS & Labeling+One (DCS: Data Collection Systems)	DCS & Labelingは、バーコードやRFIDなどの自動認識技術とプリンタやラベルなどの商品・サービスを活用して、さまざまな現場にある人やモノの情報（＝Data）を正確かつ効率的に収集（＝Collection）する仕組み（=Systems）と、情報を最適な形でひも付けするタギング（含むLabeling）を提供するサトーグループのビジネスモデル。 DCS & Labeling+Oneは、お客さま課題の高度化を受けて、オープンなイノベーションやパートナーシップを活用し、本ビジネスモデルに画像認識・音声認識や位置測位技術、センサーなど（=+One）を組み合わせてお客さま課題の解決手法をさらに向上させる取り組み。
8	情物一致	現物と情報が一致すること。商品に価格等の情報をひも付けするハンドラベラーの時代から続くサトーの事業コンセプト。

※下線付き用語は別途説明項目あり

用語集（2/4）

サトー独自のコンセプト/取組（続き）		説明
9	現場力	さまざまな市場・業界のお客さまの現場と向き合い、運用を理解し、課題の本質を捉えて最適な解決策を提供する力。カバレッジ(現場を知ることで蓄積された幅広い「市場x業界x用途」の課題へ対応する力)、インテグレーション(戦略パートナーとの共創に基づき、商品・サービス・技術を統合して提供する力)、メンテナンス(継続的なソリューション提供でお客さまの信頼を醸成し、深く、長い関係を構築する力)の3つの要素で構成される。
10	三行提報	社員が現場でキャッチした、会社を良くするための情報やアイデアを三行（約127文字）にまとめて、毎日経営トップに直接提出するサトー独自の取組み。経営トップはいち早く社内外の環境変化を把握し、迅速な意思決定や必要な施策を講じ、社員は経営者と同じ目線で物事を考える「全員参画の経営」に寄与。また経営トップに直接提出することから、不正や不適切な行為などを防ぐモニタリングとしての役割も担っており、コーポレートガバナンスの面においても効果を発揮。 1976年から始まり、近年は海外拠点の導入も増えている。
11	AAP（Area Alliance Partner）施策	各県を細分化し、サトーがカバーしていない地域や業界で強いプレゼンスを持つ企業とパートナー契約を締結する活動。
商品・サービス・技術		**説明**
1	メカトロ商品	プリンタやラベル自動貼付機器、スキャナ、ハンドラベラーなどのハードウェア、ソフトウェア、保守サポートなど、サプライ商品以外のすべて。粗利率はサプライ商品よりも高い。プリンタはマレーシア、ベトナムおよび台湾にて製造。
2	サプライ商品	可変情報ラベル、RFIDタグ、プライマリーラベル（商品シール）、リボンなどの消耗品。粗利率はメカトロ商品よりも低いが、リピートビジネスのため販売管理費率は小さい。
3	自動認識ソリューション	DCS & Labeling+Oneを実現するための商品・サービス。具体的にはプリンタ、ラベル、ソフトウェア、保守サポートなどの組み合わせ。加えて、近年は複雑化・多様化するお客さま課題に応えるために自前主義に拘らず、パートナーシップを推進することにより実現を目指す。例えば位置測位技術を用いて人・モノの位置情報を取得し、作業者や在庫の動きをリアルタイム捕捉することで、工数・作業時間の見える化や製造工程進捗管理を実現。

用語集（3/4）

商品・サービス名・技術（続き）		説明
4	SOS （SATO Online Services）	お客さまのプリンタをクラウドに接続して遠隔でモニタリングを行うサービス。これにより予防保守やエラー時の早期復旧が可能となる。またお客さまはプリンタの稼働・活用状況を一覧でき、資産管理が容易となる。 一方サトーにとっては、予防保守の実現による保守人員の労働生産性向上や、保守人員が少ない海外におけるサポート向上に寄与。
5	AEP（Application Enabled Printing）	プリンタに内蔵された知能がラベル発行作業を最適化。PCを介さずにプリンタ単体で他のシステムとの連携も可能。
6	可変情報ラベル	バーコードや商品価格、製造年月日、消費期限など、お客さまの現場で必要に応じて変化させる情報を印字する用途のラベル。必要な時に必要な分だけ発行できる点が、固定情報を一度に大量印刷するプライマリーラベル（商品シール）との大きな相違点。
7	RFID （Radio Frequency Identification）	自動認識技術の一つ。電波を利用してデータの読み書きを行い、①複数一括読み取り、②非接触での読み取り、③遮蔽物や汚損があっても可能な読み取り、④情報の書き換え、といったバーコードには無い特性を持つ。これにより、業務効率の飛躍的な向上が実現可能。
8	IDP （Inline Digital Printing）	感熱顔料を含む塗料をさまざまな基材に塗布し、レーザー照射による発色でダイレクト印字ができる印刷技術。

用語集（4/4）

2012年以降に買収した主な会社		説明
1	Argox Information Co., Ltd.（台湾）	2012年に買収したエントリー・モデルのプリンタの開発・製造・販売子会社。
2	Achernar S.A.（アルゼンチン）	2012年に買収したプライマリー専業子会社。
3	Magellan Technology Pty Ltd.（オーストラリア）	大量のRFIDタグを高速かつ正確に読み取ることができ、金属や液体の影響、および積層状態での読み取りに強いなどの優位性の高いRFID技術「PJM (Phase Jitter Modulation)」を含む同社の事業を2013年に譲り受け、SATO Vicinity Pty Ltd.を設立。
4	Okil-Holding, JSC（ロシア）	2014年に買収したプライマリー専業子会社。サトーホールディングスが75%を保有。同国のX-Packは関連会社。
5	Prakolar Rótulos Autoadesivos LTDA.（ブラジル）	2015年に買収したプライマリー専業子会社。
6	DataLase Ltd.（英国）	2017年に完全子会社化したIDP事業を推進する開発・製造・販売子会社。2020年9月、同社の全株式をDataLase Holdings Ltd.へ譲渡。
2017年以降に設立した海外子会社		**説明**
1	X-Pack（ロシア）	シュリンクスリーブ、インモールド、軟包装の製造・販売を行い、サトーホールディングスが60%の株式を保有するプライマリー専業子会社。2017年設立。
2	SATO Healthcare Switzerland AG (スイス)	ヘルスケア事業を担い、サトーホールディングスが100%の株式を保有する子会社。2018年設立。
3	SATO Productivity Solutions Mexico S.A. de C.V. (メキシコ)	自動車産業に焦点を当てて事業を展開し、サトーホールディングスがほぼ100%の株式を保有する販売子会社。2019年設立。

【本資料ご利用にあたってのご注意事項】

- 本資料に記載の内容は全て2021年2月現在の情報をもとに作成したものです。
- 本資料に記載の内容は予告なく変更することがあります。
- 本資料で使用される商標、ロゴ、商号に関する権利は、当社またはそれぞれの権利の所有者に帰属します。
- 本資料の内容に関する一切の権利につきましては当社に帰属し、本資料の全部または一部を当社の文書による事前の承諾なしに転載または複製することを固くお断り致します。

www.sato.co.jp